サハリンのバハイの歴史について

ナデイア・マルチューク

ここで皆さんにお会いする機会を与えられたことを、とても嬉しく思っています。この機会に、サハリンのバハイからの愛と、皆さんによろしくということをお伝えしたいと思います。今日私は文化の多様性と人間の可能性の開発について興味のあるお話しを聞きました。それで、私もこのことについて少しお話します。

私たちは多様性について話し合いました。この点から見るとサハリンはユニークなところです。皆さんは多分サハリンの1940年50年代はあまり開発されていなかったということを、その歴史から知っていらっしゃると思います。そしてスターリンは当時国家の元首でした。彼はサハリンの開発のためにソ連全土から若者を集めました。若い人たちは熱意をもってこの呼びかけに答えました。そして急いでサハリンへ行き工業と農業の開発を始めました。社会主義共和国のすべての代表はむしろ愛国者や民族グループで、多くの交通困難がありましたがサハリンへ到着しました。

ロシア人、ベラルシ人、グルジア人、モルダビア人、レテイシュス人、タタール人、バシュキル人、アルメニア人、韓国人はサハリンの自然の美しさに魅せられて、長いことサハリンに留まりました。その後彼らの何人かは永住しました。彼らは大変若くエネルギーに溢れていて、そして共通な目的と夢を持っていました。一つの共通な言語を話すということでした。激しい労働のあとで、夜文化的な集りをするのが常でした。そこでみんなは一緒にロシヤやウクライナの歌を歌ったりモルダビアやグルジアのダンスを踊り、ベラルーシやアルメニアの詩を読んだりしました。若い人たちが恋に落ちるのは自然なことです。その結果サハリンの大多数の家族は混血です。これがわたしの父、ロシア人がタタール人の私の母に会ったそもそもの始まりです。サハリン島は歴史的に多文化の島です。考古学者は考古学の発掘中に違った大昔の文化の跡をみつけました。それは7000から9000年前のものです。科学者は、当時でさえ、サハリンに住んでいる人たちは、いろいろな部族に属し、違った文化を持っていたことを発見しました。現在サハリンに住んでいるのは、ロシヤ人、ベラルーシ人、ウクライナ人、モルダビア人、韓国人、グルジア人、ラテイシ人とタタール人です。この絵は先住民族なしには完成しません。ニブヒ、オラチ、アイヌ、そしてウイルタです。これらの部族の運命には多くの悲劇の時代がありました。しかしこのことは別に論じなければならないテーマです。しかし今日、家族のレベルでは、人々はかれらの伝統と言葉を保存するよう試みています。だが不幸なことにサハリンではロシヤの文化が支配的です。でも一つの例外があります。サハリンの北では、多くの小さな村があります。先住民は決まりとして同じ国籍や部族に属しています。ニブヒ、ウイルタなどです。前のソ連政府は少数民族を援助しようとしました。そしてサハリンの北では先住民は彼らの伝統や文化や技術を保存しています。

バハイ信教は私たちが“ペレストロイカ”（再建）と呼ぶ大変に興味ぶかい時期にサハリンにやってきました。民主主義はロシヤにその最初の足跡をしるし、そして私たちはついにじか

に情報を得ることを許されました。サハリンは外国人に開放されました。私は友達のみんながあらゆる種類の情報に飢えていて、以前は禁じられていたすべてのものを読んだり新しい有名な映画を見たり、新しい興味ある人に会うことにおお慌てだったのを憶えています。私はロシヤ人はもともと何かを探し求める人間だと思います。サハリンの人も例外ではありません。彼らにとりすべてが面白かったのでしょう。

そしてその 1990 年に、私の友達は新しい宗教、バハイについて話し始めました。私がすでに言ったように、鉄のカーテンがあげられ、長いこと軍事地域だったサハリンが外国人にも開放されました。サハリンでのバハイ信教は、ナイトオブ　バハオラである大陸顧問のカテライ氏によって開かれました。彼は経済的にも政治的にも問題があったり、毎日の生活や交通の困難なことを無視して、奥さんと共にサハリンへ来ました。最初の数年間サハリンで生活するのがいかに大変だったかを理緯していただくために、一つの例をお話しましょう。

“ペレストロイカ”が始まった後、一ヶ月すべての食糧がお店から消えました。特別なクーポンがなければどんな食物も買うことは不可能でした。クーポンはあれやこれやの工場や企業の労働者だけが手にいれられるものでした。食料はすごく限られていたので私たちでさえ生き延びるのは難しかったのです。カテライさんはバハオラのメッセージを持ってきたばかりでなく、沢山の品物ももってきました。履物とか、建築資材とか食料品です。まず、サハリンの人がバハイを受け入れました。これは歴史的な事実となっています。カテライさんは世界中を布教してまわったり、パイオニアとなって旅行した後サハリンを訪れました。この点から言うと、私の島は大変にバハオラによって祝福されていたと思います。7 年以内に 18 の国から 60 人以上のバハイが学校、集会、セミナー、子供クラス、大会などに参加しました。それらのなかには、日本でも知られているムンシフさん、ワイコフさん、ベスマッケンテイさん、ノレハタイドさん、フーベンデイックめぐみさんなどがいます。私たちのところに、大陸顧問、4 人の顧問補佐、1 名の万国正義院の代表、1 名のワールドセンターの代表、そしてルヒヤカヌームとナクジャバニ夫人などが来て下さいましたのは幸せなことでした。カテライさんはとても謙遜される方ですのでその活動について話されるのを好まれませんが、私の友達は特に彼が私たちにしてくれたことを話すように頼みました。カテライさんがくるときはいつもサハリンのバハイにとっては特別な時となったのです。大変私たちは彼が好きですし、サハリンで再び彼に会えるようバハオラにお願いしています。

ここで再び 1991 年に戻ってみましょう。私は当時カテライさんの事務所で働くという特権を与えられました。私たちは島中にバハオラのメッセージを広めるためにあちこち旅行しました。いろいろな町や村で、人々と集会を開き、新しいバハイを得たり、友達を作りました。私の生涯で最も幸せなときだったと言えるでしょう。人々はとても友好的で、好奇心に富み新しい精神的な教えにたいして受け入れる態度でした。地方の機構もいつも私たちを助けてくれました。ある人たちはすぐにバハイを受け入れました。そして時々面白いことがおこりました。あるとき、ホルムスクの小さな町の音楽学校の先生たちと集まりを開いていました。その集会はとても面白いものでした。実際それはコンサートのようなものでした。生徒たち、先生たちの両方がピアノを弾きました。一人の女性が集会の後、やって来て言いました。「来てくださってありがとう。打ち明けて言いますが、あなたがたがやって来たとき、私たちは、バハイとはドイツの作曲家バッハ愛好者の集まりだと思いました。それで出来るだけ多くのバッハの曲を演奏しようと思ったのです。」ようやくバハイが何であるかが分かり、バハイがどんなもの

であるかを知って驚きました。彼女はプロの音楽家ではありませんでしたが、同じコンサートであの偉大なバッハの曲を演奏しました。今その女性はホノレムスクの地方精神行政会の議長をしています。ある所では、人が何かを言うのを聞くことは挑戦を受けているようなときがあります。「長いこと何処にいたんですか。私たちは一生このメッセージを待っていたのですよ。」それは急がなければならないということでした。時間はあまりに貴重です。私たちは今、ここで信教を広めねばなりません。

1995年までに8つの地方精神行政会が南の方に、3つが北の方にできました。1993年フィリピンから来たマデラさんがユジノサハリンに“兄弟”と名づけたインスチチュートを作りました。そのおもな目的は、人材をふやし、人力を増やすことでした。それ以来定期的な研修コースがあります。残念なことにマデラさんはもういません。ロシヤで亡くなりシベリヤのどこかに埋葬されました。しかしロシヤでの彼の汗と活動の記憶はロシヤ人の心に永遠に残るでしょう。彼は彼自身でお手本をしめし、すべてのことに謙遜であるとはどういうことか、24時間信教に奉仕するとは何かを教えてくれました。

私たちの研修講座は顧問補佐のカリギーナさんによってコーデイネイトされています。6人の人がそのために仕事をしています。地精会の代表、地区のバハイ協議会、などの人々です。各コースのプログラムとその予算と場所（どこでやるか）は規則としてこれら7人によって話し合われます。私たちは場所を動かないコースと移動するコースの両方をもっています。動かないコースはユジノの研修センターの建物でおこなわれ、移動するほうは、ホノレムスクかドリンスクのバハイセンターでおこなわれます。ある例ではそれは大変便利なものとなっています。特に今サハリンの経済条件がすごく変化し、バハイもまたすべてのサハリンの人と運命を共にしています。多くの企業はあまり動いていないし、五つのパノレプエ場はサハリンの人に仕事を提供していたのですが休んでいます。漁業、木材、鉱山で働く人々に失業者がでています。遠いところのバハイの何人かはコースに来るお金がありません。この状況下では私たち教えることが出来る人が共同体に行ってその場でコースを用意するのがよいと思っています。

1995年約150人のバハイと八つのLSAでしたが、いまその数は164人のバハイとなりました。しかし残念なことに八っのうち五っのLSAを失いました。北の方で三、南の小さな町で二つです。もちろん、第一に過酷な経済条件のもとでは、特に小さい町では死んでしまっていること、第二にネフゴロスクの最近の大きな地震です。そのような状況下では多くの人、特に北からの人はサハリンを離れ本国へと行ってしまいました。これは私たちとっては大変悲しいことでありますが、この事実にもかかわらず、バハイの総数は新しくバハイに加入する人の数のためにそんなに減ってはいません。今バハイは14の町と小さな村にいて、ユジノサハリン、ホノレムスク、ドリンスクの三つの活動しているLSAがあります。バハイの中には、医師、先生、通訳、工業労働者、事務職、運転手、水兵、芸術家などがいます。これら7年間に6人の顧問補佐（三人は今モスクワ、カザフ、ノボシビルスク）がいます。そして八人のパイオニアがいます。ロシヤで最初のバハイは、サハリンから世界センターに奉仕に行きました。それは私たちの親しいオルガダイノブスカヤです。今彼女は顧問補佐として活躍しています。“ペレストロイカ”の時からサハリンに最初のバハイニュースがうまれました。いろいろなことで、サハリンは音頭をとっています。最初のロシヤの地方委員会はサハリンで作られました。インドで勉強した21人の最初のロシヤ人のグループがパンチガニーアカデミーで勉強したのですが、サハリンから行った人たちでした。ロシヤで最初の定期的に行われる研修はサハリンでの

バハイ研修講座です。7年以内に5つの冬期学校と5つの夏期学校をしました。最初の夏期学校は、それは特に子供と若い人たちのものでしたが、サハリンで開催されました。子供たちの学校としては、それは大変すばらしいものでした。マリオンジヤックプロジエクト以外ではそのようなものは私たちにとって、はじめての経験でした。もちろん私たちは出来るかどうか心配でした。万国正義院の言葉を借りれば“その地区の若い人たちに伝え協力する”ということですが、地方協議会は若い人たちを信頼し、よいプログラムを作り、彼ら自身で用意し、それをやりました。この学校の目的の一つは信教に奉仕しようと言う熱意と熱心さというのでした。プログラムの準備の間に若い人たちはLSAと地方協議会との間で協議をしました。彼らは注意深くバハオラの聖典を勉強しました。そしてこの仕事を立派にやりました。40人以上のこどもたち、彼らはバハイとそうではない子供たちですが、4日間の“冒険の国へようこそ”と言う名のもとに行われたその学校に参加しました。その経験はたいへんすばらしいものだったので地方協議会は7日後に次の夏期学校をしようとしました。

もう一つの企画は、それはサハリンでは今行われているのですが、長期的な図書にかんするプロジエクトです。この本に関するプロジエクトでは、地域の図書館にバハイの本を何冊か贈呈しました。そして私たちの本もあげました。地方の図書館にもおなじようなことをしましたが、大変喜ばれました。それ以上に、地域の図書館自身が他の地域の図書館に私たちの本を配ってくれました。そこは私たちが行けなかった所です。その書物の中にはバハオラの聖典、アブドルバハの本、“一つの国”という雑誌、世界センターからの資料やメッセージでした。

そのほかモスクワからマーシャスクレブストワが来ました。その人は詩人で、子供の精神教育にかんする本を5冊書きました。ユジノサハリンで、ドリンスクで、ホルムスクで、いくつかの集まりを計画しました。そこで彼女は自分の本を紹介しました。そのような集会はコンサートのようなものでした。マーシャは彼女の作った歌を歌い詩を読み上げました。彼女の詩はいつも変わらないもの、愛とか友情、生と死、善と悪、神、神に対する私たちの態度などについて人々に考えさせるものでした。私たちはマシーヤの本を教育大学の生徒たちに紹介しました。そしてそのほかいくつかの小学校の低学年の担任の先生たちの高い評価を得ました。というのはこれらの本は有名なロシヤの物語や詩、違った地域の歴史、そしてバハイ信教のことを含んでいました。また、質問もついていて、それは話し合いの技能や機転をす早くきかせることを子供たちに要求しました。これらの本を使うことは大変やさしく、また面白いものでした。先生のいく人かはそこから資料を使い、そして時々彼らはバハオラの聖典を使っているとは知らないのです。ドリンスキの町の近くにポロヴカという小さな町があります。このポロヴカに小学校の先生でバハイの人がいます。名前はフエドトワさんと言い、その人は道徳教育のクラスのもとになるものとして、バハイの文献をすでに6年も使っています。その生徒たちは何か特別なものを持っています。彼らは広い視野で世界を見ています。彼らは葉っぱや蝶を愛と感謝をもってあつかいます。もちろん、これはごく単純なレベルの話しでのことですが。彼らは同じ年の子供たちと大変違っています。それで他の町の先生たちはポロヴカへ来て、その子たち会うようにと言います。地方の教育局の役人も道徳教育のプログラム、一これはバハイによって提案されたものですが、それは文部省のものよりずっと良いと言っています。フェドトワ先生は才能のある先生であるばかりではなく、彼女は有名なこの地方の芸術家であり作家です。実際各共同体には才能のある人々がいます。たとえば、ホノレムスクの共同体には72歳のおばあさんがいますが、彼女は自分で作曲しバハイのお祈りの歌を美しく歌います。コルサコフ

のバハイの一人は彫刻家です。彼女の小さな作品は外国人の旅行客の間で評判です。ユジノサハリンでは、若い人たちがいつも19日のフィーストでコンサートを催し、ギターやピアノ、バイオリンを演奏したりお祈りを吟じ、バハイの歌をうたいます。それはフィーストの雰囲気を大変精神的に、そして、お祝いらしくします。サハリンのバハイはいつも島の外での違ったプロジェクトに参加しようとしています。ネベリスクとユジノサハリンの共同体から二人のバハイが（すでに二回目ですが）アジア大陸顧問団によって組織された大きな文化的なプロジェクトに参加しました。2ヵ月の間彼らはバハイの合唱団と共にロシヤ中を旅行しました。どこでもこの合唱団は成功を収め、ロシヤの町や市の文化的な生活に大変な影響を与えました。この合唱団の活動は広くメデイアによって取材されました。その活動の結果としてロシヤ内で多くの新しい加入者を得ました。

もうひとつの地方的なプロジェクトが今行われている最中です。それは女性プロジェクトというものです。最近私たちは一つまた一つと二つのセミナーを開催しました。両方ともバハイとバハイではない女性たちのためのものです。セミナーは「私の家庭は平和と幸せの港です」という名前がついています。このセミナーで女性たちの素早い反応を見て喜びました。彼らの何人かは大変勇気づけられました。彼らは立ちあがり、そして仕事を持っている事務所や会社でバハイではない女性たちと共に働きはじめました。一般に全てのバハイ共同体はサハリンの地方協議会によって練られた計画にもとずいて作られた彼らの計画によって動いています。これらの計画は大変興味あるもので、そして4年計画のためのロシアのNSAにより提案されたプランの主な要点を含んでいます。今年はサハリンのバハイはマスメデイアと一緒の、そして地域や地方の行政の役人のような人々、異なった委員会、そして地方新聞の編集者たちとの仕事に非常に注目しています。私たちは既にどうやって一緒に働くかについてのよい経験をもっています。地方協議会はユジノサハリンにある地域の行政に付属している女性委員会、宗教に関する地域の委員会、地域の広報委員会、地域の教育局の部長、ユジノサハリン大学の部長、『ソビエツキーサハリン』紙の編輯主幹、そして多くのNGOと、地域の高い地位にある人々に、レベルの高いバハイ信教によって提供された資料を渡しました。それから女性委員会から何人かの役人が私たちのセミナーに出席し、次のセミナーにも出席したいとのべました。私たちは冬期学校を計画しています。2月に開催されますが、同様に女性のためのもう一つのセミナーも計画しています。若い人たちはキタビアクダスの勉強を始めましたが、バハオラのおかげで、NSAによって準備されたキタビアクダスのロシヤ語の翻訳があります。この作業は継続されていく計画です。私が帰った後すぐに会計のための特別な研修コースをするつもりです。